

開講科目名 Course	証券市場論研究 (B) / Securities Markets (B)
時間割コード Course Code	13970
開講所属 Course Offered by	会計学研究科博士前期課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	水 / Wed 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2
主担当教員 Main Instructor	野村 重明
科目区分 Course Group	関連科目
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	野村 重明 (会計学研究科修士課程)
授業の目標	<p>知識・理解の領域</p> <p>1. デリバティブと言う一つの金融の大きな流れは、世界的にはどのように発展したのかを理解すること。</p> <p>2. これらの概要を知ること。</p> <p>3. これらは、いずれも複雑な仕組みを持つ多様な金融商品として仕立て上げられ、市場で売買されていることを理解すること。</p> <p>4. これらは日本にはどのように受容されてきたのか、また現状はどのようになっているのかを理解すること。</p> <p>関心意欲の領域</p> <p>1. 2008年のグローバル金融危機には、これらがどのように関与したのかにも思いをはせること。</p> <p>2. 新聞・雑誌等のマーケット欄に掲載されるこれら金融商品の相場 (特にデリバティブ関連) にも関心を持つこと。</p>
授業の概要	<p>証券市場論は様々な観点からアプローチが可能である。ここでは、1970年代に始まりその後世界的な潮流となった2つの金融の流れ、つまりデリバティブと金融の証券化のうち前者について考える。ただ、ここでは、様々なデリバティブの基本的な仕組みを知ることによって、その大きな2つの機能—金融商品の価格変動をヘッジする機能を果たす一方、他方ではレバレッジが働くことによって投機にも役立つ—を理解したうえで、新聞のデリバティブ市場欄はどのように見たらよいのかを考えるにとどめたい。</p> <p>なお、デリバティブは、100年に一度とされる2008年のグローバル金融危機を惹き起こす元凶となったとも考えられているので、その点についてもできるだけ触れたい。</p>
評価方法	講義への参加姿勢を30%とする。レポートを重視して70%とする。特にレポートでは、論題が証券市場に係るものになっているか、問題意識が明確であるか、多くの資料に眼を通していているか、自分の文章で書いているか、を重視する。自身の研究テーマから証券市場にアプローチしたものを歓迎したい。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特別の事情がない限り、出席回数が10回に満たない場合失格となる。

授業計画	第1回 授業の概要、研究姿勢、参考書について 第2回 デリバティブとは何か、その市場規模 第3回 スワップ取引 第4回 スワップ取引 第5回 先渡取引 第6回 先物取引 第7回 先物取引 第8回 先物取引の機能 第9回 オプション取引とは 第10回 オプション取引とペイオフ 第11回 合成オプション 第12回 クレジット・デリバティブ 第13回 クレジット・デフォルト・スワップ 第14回 新聞のデリバティブ欄の読み方 第15回 新聞のデリバティブ欄の読み方
テキスト	使用しないが、講義のなかで興味を持ったテーマについて、関連文献を読むことによって、自身で知識を深めるように努めて下さい。
参考書	講義の際に、関連文献を紹介する。
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	メールで対応 (nmsalucky20@gmail.com)
フィードバックの方法	メールで対応 (nmsalucky20@gmail.com)
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	授業前には配布資料に眼をとおすこと。授業後には資料を読み返すとともに、自分のノートを参考して、分からない点をチェックしたうえ、次の授業の際質問してください。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	